

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103953
法人名	有限会社やわらぎ
事業所名	グループホーム ぷうさんのおうち
所在地	愛媛県松山市久万の台 1 3 7 番 6
自己評価作成日	平成22年6月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

本人の意思の尊重に努め、生活の場が笑顔の多い場出るように「笑い」や「楽しみ」を感じる場面を増やせるように努める。利用者との人間関係の構築に努め、心の言葉を感じ取れるよう、日々のケアを大切に、利用者の思いに寄り添うことができるように努力する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の移転時には、ご近所の方達にもあいさつに回られた。
 玄関には、趣のある木の看板を掛けておられ、金魚やめだかを飼っておられる。天井が高く、吐き出し窓も大きくとり、広々とした造りになっている。居間には、七夕飾りが飾られていた。居間には、ゆったりとしたソファや二つのテーブルが配置され、車椅子の利用者もご自分で移動しやすいスペースが造られている。お習字のお得意な利用者が事業所の理念を書いてくださっており、入口に掲げておられた。
 日常の会話の中から、食事のリクエストや好きなもの等を聞き取り、職員が献立を考えて、事業所で利用者も一緒に調理されている。調査訪問時には、利用者が野菜の皮むきをしたり、寿司飯をうちわで扇いだり、薄焼き卵を焼いている様子がうかがえた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	項 目	取 り 組 み の 成 果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 有限会社 やわらぎ

(ユニット名) グループホーム ふうさんのおうち

記入者(管理者)

氏名 越智 美代子

評価完了日

22年 6月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念ではないが独自の理念を作り、その理念を掲示している。また年度末には、職員一人一人反省をし次年度につなげている	
			(外部評価) 21年度に「利用者の方の思いに寄り添い和気あいあい」という当事業所独自の理念を作成された。年度ごとに、職員全員が理念に基づいて、一年間の取り組みを振り返り、次年度の取り組みを検討されている。	事業所では「地域との密な関係と相互理解ができるようになりたい」と考えておられる。事業所は、移転されたことにより、新しい地域とのお付き合いが始まっている。さらに地域の方達にも「事業所が地域密着型サービス事業所として、地域の中でどのようなことを目指していくか」ということを示して、理解や協力につなげていかれてほしい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 移転後、地域との関わりが少ないないが外出時には近所の人に挨拶している。施設の活動報告として2ヶ月に1度運営推進会議等で活動を報告している。	
			(外部評価) 事業所の移転時には、ご近所の方達にもあいさつに回られた。運営推進会議時に民生委員の方から、夏祭りや敬老会等、地域の行事を広報で知らせていただくことになった。亡くなられた利用者のご家族には、続けて事業所の近況報告や行事時の案内状を送っておられる。	町内会の加入や回覧板を回す等、事業所が地域の一員として、この地域に根付いていけるよう、これまで培ったノウハウ等も活かし、地域へ積極的にかける等、関係作りに努力していかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議への参加や月2回の喫茶店、ボランティアの募集等のパンフレットにも記載し、理解してもらえるように努めているが、地域貢献としてはまだ機会が少ない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員会議での報告、利用者への対応の難しさなどを参加者に掲示し理解や協力を求め、職員も交代で会議に参加している。また、見直す点がある場合は職員会議で話し合いをし意見交換をしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>2ヶ月に一度の会議には、地域、市、ご家族、利用者の方々が参加され、活発に意見交換をしておられる。要望や提案をしていただくこともあり、その都度、参考にして取り組んでおられる。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域包括センター主催の連絡会に参加し、市町村からの情報収集、質問等の意見交換を行い共同関係を築くよう取り組んでいる。介護保険法で疑問に思ったことは連絡をして助言を貰っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>市の担当者の方には、運営推進会議時に防災のこと、研修のことなど、質問したり、アドバイスをいただいている。「職員研修で排泄、食事、入浴の基本的なケアについての研修も行ってはどうか」と提案をしていただき、実施に向けて検討されていた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>具体的の把握は全職員出来ており、そういう事実はない。夜間以外は玄関の施錠もしていない。やも得ない場合は、ご家族に説明をし、同意をもらっているが、拘束しない方向で検討している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議で身体拘束について議題として取り上げ、市の担当者や地域の方々とも一緒に勉強されたり、職員間で話し合いながら身体拘束のないケアの実践に取り組んでおられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	事業所内、外部研修への参加は行えてないが、虐待の事実はない。日々の生活で身体的、精神的虐待にならないよう全職員が努力をし気になる所は注意し合っている。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	この1年は権利擁護については学ぶ機会がなかった。生活保護制度を利用している方が多くおられ、必要性は認識しているが、話し合いの場や活用できるよう支援は出来ていない。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	契約の際、説明を行い利用者、ご家族の不安が軽減できるよう見学をしてもらい、事前面接を行い細かく説明に努め、改定等の際は書面にてお知らせし同意を求めている。
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	契約時に外部の相談場所を伝えたり運営推進会議時に利用者、家族が意見交換できるように努めている。また、ホームより自社新聞を発行し、各々家族に送付している。
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員が意見や提案を言いやすく出来るような環境作りに努めている。月1回の管理者の会、サブリーダーの会を設け、意見交換が自由に出来る機会を持っている。他提案などは随時聞くよう努めている。	
			(外部評価) 法人内全事業所の「管理者会」や「サブリーダー会」では、それぞれの事業所の利用者の生活の課題等を持ち寄り検討され、各事業所に持ち帰り、職員と話し合っておられる。職員からの意見や提案は「管理者が職員に任せてくれて、結果を一緒に喜んでくれる」と話しておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 前年度より外部研修にかかる研修費を事業所負担にしてもらい、年度内に職員全員が1回は外部研修を受けられるようにしたりし、質の向上を目指し環境条件の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個人的には資格取得のためのスクーリングに参加させてもらった。他研修も勤務調整し参加できる体制をとっている。希望する研修ができるよう調整してくれている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修の参加や他グループホームとの合同研修を行い意見交換等を行っている。地域包括支援センターの研修、連絡会への参加、各事業所の行事への参加及び手伝いを行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接を行い出来るだけアセスメント等の情報収集を行ったり、1日体験入所も出来るようにし本人の不安軽減が出来るように努めている。入居間もない時の不安は利用者も職員も大きい。その時の不安を受容し、全職員で情報を共有し、柔軟に対応を変化させ本人の心の安定に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	コミュニケーションの中から不安なことや要望を聞き取り、利用者や家族との関係作りに努めている。
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	利用までに管理者が面接を行い、必要としている支援を見極めるようにしている。時間の流れで変化することも多いのでスタッフ間での情報交換を細かく行っている。
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	残存能力を生かして、料理手伝い、掃除などに参加してもらい、本人の役割や自信を取り戻してもらえるよう対応している。手伝って頂いた時には感謝の気持ちを伝えている。
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	行事参加の声掛け、自社新聞の発行、面会時などでホーム内での情報、報告を行ってともに支えあっている関係作りをしている。
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	相手の理解、協力が得ることが出来ている所については関係が途切れないように支援している。
			(外部評価)	「お墓参りに行きたい」と希望される利用者に職員が同行されたり、娘さんに「手紙を書きたい」と言われる利用者の方が手紙を書くことをお手伝いされている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 会話、口論の仲介、感謝の言葉など個々の利用者が敬意を持って生活して頂けるよう努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても手紙や行事への参加の声掛けを行い、ご家族がいつでも気軽に来所できるように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメント、日常の会話の中から情報収集し本人の意向に添えるように努めているが、意思疎通が困難でご家族のおられない利用者については情報が少なく、入居されてからの表情などでスタッフが推測している。	
			(外部評価) ご本人の事情等で、入居前の暮らしの様子を知ることができない方や意思表示がむづかしい方もあるが、職員は、日々の関わりの中で「いつもと違う」表情や口調をつかんで、快・不快、好き・嫌いを見極めて、ケアに採り入れるようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族のおられる方やコミュニケーションがとれる方は情報収集できるが、家族のいない方、疎遠の方は日常生活の中から情報収集するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の情報や介護記録、体調管理など連絡ノートや話し合いをして、情報の共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回スタッフ会でモニタリング、日々のケアプランのチェック、本人、家族、Drなどの意見を記入し、意見交換を行い、本人に合った支援になるようにしている。	
			(外部評価) 月1回の職員会議で、利用者それぞれの担当職員が収集したアセスメントの情報や介護計画についての意見を出し、他の職員と意見交換されている。又、モニタリングの状況についてご家族に報告し、意見をお聞きしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りやスタッフ間のノートの作成、個別記録などで情報を共有するようにし、介護計画の見直しも出来るようにしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけニーズに対応できるように人員の調整をしながら心掛けている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの受入れ、消防の指導訓練、保育園、地域行事の参加をし外部との交流で楽しみを持ってもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>連携医療機関に週に1度の往診、本人、家族の希望が あれば他医療機関を受信できるようにしてはいるが、 希望回数が多いと実行しにくい場合もある。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ほとんどの利用者が協力医療機関で受診しておられる が、以前からのかかりつけの総合病院に職員が同行し て、受診を続けておられる利用者もある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	(自己評価)	
			<p>利用者の心身の変化を看護職員に伝えたり相談したり している。</p>	
			(外部評価)	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>出来るだけ面会へ行き、不安の軽減に努めたり、医療 機関との情報交換や利用者の要望を代弁したりしてい る。</p>	
			(外部評価)	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>入居時に看取りについて家族、本人の意向を聞かせて もらい事業所で出来ることを説明し、1年に1回再度 聞き取りをさせてもらっている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>病院で亡くなった利用者のご家族が「自宅で看取れな かったことを後悔した」と管理者に話されたことが きっかけで、そういう思いをするご家族が出ないよう にと考慮して、入居時に看取りについて説明されたり、 毎年必ず「ご家族の看取りについてお聞かせくだ さい」と書面でご希望を聞くようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生に備えての訓練は行えていないが、緊急マニュアルを作成し対応できるようにしている。また、消防署の指導を実施している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は実施しているが、地震、水害時の対応は出来ていない。地域に協力の呼びかけはしているが、移転して間もない為、協力は出来ていない。 (外部評価) 年2回避難訓練を行っておられ、訓練時、実際に職員が避難経路を移動しながら確認されたり、消防署の方に消火器の使い方を教えていただいた。又、避難時には「布団ごと運ぶのがいい」とアドバイスをいただいた。事業所の移転に伴い、地域との協力体制作りの取り組みはこれからである。	地域の方々が参加してくださっている運営推進会議や地域行事等をきっかけに、今後、協力体制を作っていかれてほしい。併設事業所との協力体制や災害時の避難方法等についても、職員で具体的に話し合い、訓練を重ねていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者との距離が近づくと対応が難しくなってくるが、その人の人格を傷つけたり、不快な思いをさせないように心掛けている。 (外部評価) 日々のケアの中で利用者との関係が「親しくなることと馴合いの違い」を考えて、職員間でその都度注意合っ、プライバシーを損ねないように心がけておられる。調査訪問時、職員は、利用者の車椅子を押しながら、耳元で声をかけトイレに誘導されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望に添えるよう判りやすく説明し理解していただいている。自己決定が困難な方は表情などから職員が推測している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	人員不足で利用者の方の要望に添って支援していきたいが対応しきれていない。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	散髪、買い物など希望に応じて対応している。また女性利用者の方にはお化粧品もすすめている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	好みが違うので全員が好むとなると難しい。調理の下準備や皿拭き等出来ることはして頂いている。	
			(外部評価)		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	水分量、食事は毎日記録に残している。摂取できないメニューの時は別の物で対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	毎食後の口腔ケアは実施できていないが入眠前は必ず実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	排泄のリズムを確認できるよう排泄記録をつけている人が多い。また、スタッフ間での話し合いを通してその人に合ったスタイルで対応できるようにしている。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	排便の管理を実施しており、便秘になりがちな方は体操をしたり、乳製品や柑橘類を摂取して頂いている。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	本人の意思を尊重して行っているが、職員の都合になるときもある。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	体調に応じ空調を用いたり、睡眠のペースを乱さないよう支援している。昼夜逆転を思える場合もあるので、日中の過ごし方を工夫している人もいる。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情を往診記録に綴るようにし職員全員が周知できるように努めている。服薬変更時は往診記録に記入し申し送りをするようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望を尊重し、気分転換できるように努めたり、生活歴を活かし保育園に朗読に行かれたり映画鑑賞されている方もおられる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日にちが決まっている場合は人員調整をし外出できるように努めている。また、年間行事等、家族、地域の方にも呼びかけ、理解、協力して頂いている。	
			(外部評価) 「回転寿司へ外出に出かけたり、買い物やカラオケ、アイスクリームを食べに行く」等、利用者それぞれの希望等も聞きながら出かけておられる。	ご家族の協力がむつかしいことや職員数の制限等、利用者の外出希望に合わせて支援することはむつかしいようであるが、職員の体制等の工夫や協力者を増やす等、利用者個々が日常的に戸外に出かけて楽しめるよう、支援していかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) おこづかいは利用者の方の了解をもらい職員が管理しているが、可能であると思われる場合の支払いはご本人にして頂く事もある。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 相手側の理解、協力が得ることが出来る方については、交流が図れるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節の花などを飾り季節的な認識が持てるように努め、快適に過ごせるようにエアコン等で温度調節している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には、趣のある木の看板を掛けておられ、金魚やめだかを飼っておられる。天井が高く、吐き出し窓も大きくとり、広々した造りになっている。居間には、七夕飾りが飾られていた。居間には、ゆったりとしたソファや二つのテーブルが配置され、車椅子の利用者もご自分で移動しやすいスペースが造られている。お習字のお得意な利用者が事業所の理念を書いてくださっており、入口に掲げておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間で1人になれるスペースはないが、利用者の状態に合わせて移動し気の合った利用者同士での交流を出来るように努めている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みの家具の持込やご本人が使用されていた物を使用して頂き安心して過ごしてもらえるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室入口には、利用者個々に手作りのネームプレートをかけておられる。亡き奥様の仏壇を置いて、しきびを生けておられる利用者もみられた。担当の職員の方と一緒に撮った写真を飾っておられたり、演歌歌手の歌を聴くことがお好きな方は、ご自分のCDプレーヤーで楽しまれていた。ベッドのまくら元にラジオを置いて、ニュースを毎日欠かさず聞いておられる方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>今までの生活歴や日々のケアの中からの情報収集をするように努めているが、出来ることへの対応が拒否されることもある。</p>	